

# 防災科研ニュース

The Great East Japan Earthquake No.175 (C) 独立行政法人防災科学技術研究所 2012.1



## 特集

- ・強震観測網が捉えた東日本大震災の強震動
- ・高感度地震観測網で捉えた東日本大震災
- ・東日本大震災による沿岸域での被害状況
- ・フィリピン人津波被災者ビデオインタビュー
- ・東北地方太平洋沖地震における液状化被害
- ・東日本大震災による土砂災害の被害と特徴
- ・長野県北部地震と平成23年豪雪による複合災害発生状況

## 災害調査研究速報

- ・霧島山新燃岳噴火に関する緊急調査研究
- ・2011年台風12号災害

## 行事開催報告

- ・第7回成果発表会「防災研究5年間の総括」を開催／和達記念ホールで「緊急報告会 ～東日本大震災への対応～」を開催／第5回シンポジウム「統合化地下構造データベースの構築」第15回「自治体総合フェア」に出展／真夏の防災教育

を実施 サマー・サイエンスキャンプとつくばちびっ子博士／雪氷防災研究センターと新庄支所の一般公開／2011年度雪氷防災研究講演会ー平成23年の豪雪を振り返るー

## 受賞報告

- ・齊藤研究員が日本地震学会若手学術奨励賞を受賞／清水文健客員研究員が平成23年度社団法人日本地すべり学会谷口賞を受賞／「国道112号雪崩災害対策への功績」により東北地方整備局災害対策功労者表彰を受賞／「社会防災システム研究領域の田口研究員らが応用測量論文奨励賞を受賞」／佐藤雪氷防災研究センター長が日本雪氷学会学術賞を受賞／災害リスク研究ユニットの開発チームが「eコミュニティプラットフォーム」の開発で地理情報システム学会賞を受賞

## 研究最前線

- ・基盤的火山観測網データの公開ページ開設

## 特集 東日本大震災

2011年3月11日発生した東北地方太平洋沖地震（M 9.0）では、地震の揺れ、津波等により、20,000名近い尊い人命が失われるとともに、社会基盤施設や国民の財産などに多大な損害をもたらしました。また原発事故の影響もあり、東日本大震災と称される広域複合超巨大災害となりました。

地震発生当日、私はつくば市内にある防災科学技術研究所の研究交流棟の1階にあるセミナー室で、ある講習会に参加していました。構内放送で緊急地震速報が流れ、しばらくすると長く強く続く揺れが襲ってきました。長テーブルが前後左右に大きく揺れるため、しゃがみ込んだ状態で、長いすを押さえながら揺れが収まるのを待ちました。通常、茨城県ではこれほど長く継続する揺れを経験したことはなく、揺れている最中に「これは東南海・南海地震が発生したのかもしれない」と本気で考えていました。揺れが止まった後、外に避難してラジオを聞いていると、巨大津波が東北地方各地を襲っているというニュースが聞こえてきました。当研究所は、軽傷・重傷も含めて幸い人的被害は無かったものの、停電、断水等により通常業務に戻るまでにはある程度の時間が必要でした。も

ろろん、地震に関する情報発信については、重要業務として被災直後より活動を開始していました。

その後は、東日本大震災対策本部の事務局として、研究所の機能回復に注力するとともに、4月17日に「緊急報告会～東日本大震災への対応～」を開催いたしました。この報告会は、余震が続く中で決行し、万が一大きな余震が発生した場合の避難経路も十分に確保した上で実施いたしました。

この大震災が防災研究機関である当研究所に与えた影響は極めて大きく、当初2011年春に発行予定であった防災科研ニュース特集号「第3期の防災科研」も発行の1年延期を余儀なくされました。この大震災を真摯に受け止め、今後の防災科研が何をめざすかきちんと議論した上で、今後の方向性を示すべきだという強い意見が挙がったからです。今回の特集号では、東日本大震災で防災科研の職員が何を見、何をし、何を感じ、今後何をしようとしているかをお伝えできれば幸いです。なお、より詳しい調査報告につきましては、「主要災害調査」を刊行準備中ですので、合わせてご覧ください。

（アウトリーチグループリーダー 関口宏二）